

研究レポート No.825 岩手県農業研究センター

倒れにくい早生の飼料用米うるち水稻新品種「岩手122号」

【1 「岩手122号」の特徴】

(1) 品種の来歴

「岩手122号」は、平成21年に（国研）農研機構東北農業研究センター大仙拠点（秋田県大仙市）において「羽系飼1170」を母、「岩手95号」を父として交配が行われ、初期世代の選抜を行ってきました。平成24年からは、岩手県農業研究センター（北上市）において選抜・固定が行われ、育成された早生の飼料用米うるち水稻品種です。

(2) 現在作付けされている「つぶみのり」に

比べ、優れた栽培特性を持ちます

- ア 出穂期や成熟期は、「つぶみのり」より早く、「早生の晩」に属します。
- イ 草型は「穂重型」で、止葉が直立し、稈が太く、草姿は良好です。
- ウ 耐倒伏性は、「つぶみのり」に優る「強」で、多肥栽培でも倒れにくいです。
- エ いもち病圃場抵抗性は、葉いもち、穂いもちともに「極強」です。また、耐冷性は、「つぶみのり」並の「強」です。
- オ 収量は、「つぶみのり」並に多収です。
- カ 玄米品質は、「つぶみのり」並に劣り、主食用米との識別性があります。



写真1 「岩手122号」の草姿
(平成28年岩手農研場内成熟期)

表1 「岩手122号」の特性概要

調査年	平成25～28年		平成28年	
調査地	北上市（技術部）		軽米町（県北農業研究所）	
品種・系統名	岩手122号 つぶみのり		岩手122号 つぶみのり	
早晩性	早生の晩	中生の早		
草型	穂重型	中間型		
出穂期	7月26日	7月31日	8月3日	8月5日
成熟期	9月9日	9月15日	9月22日	9月29日
稈長	84.1	91.3	71.0	76.0
穂長	19.0	19.7	18.5	18.3
穂数	355	531	321	447
障害型耐冷性	強	強		
耐倒伏性	強	中		
いもち病抵抗性				
推定遺伝子型	<i>Pii</i>	<i>Pia, Pib</i>		
葉いもち	極強	やや強		
穂いもち	極強	中		
圃場抵抗性遺伝子	<i>pi21</i>	-		
全重(kg/a)	181	169	159	155
粗玄米収量(kg/a)	73.9	74.0	76.3	75.2
対標準比(%)	100	(100)	101	(100)
倒伏程度 ^{注3)}	0.0	4.7	0.0	0.4
千粒重(g)	24.0	22.0	24.0	22.6
玄米品位 ^{注4)}	7.5	7.7	5.6	3.6

注1) 北上市の施肥量は基肥12+追肥2kg/10a（窒素成分）
 注2) 軽米町の施肥量は、基肥8+追肥5kg/10a（窒素成分）
 注3) 倒伏程度は無を0、微～甚を1～5の6段階に数値化して評価したものである。
 注4) 玄米品位は農産物検査による評価で、検査等級1上から3下、規格外をそれぞれ1～9、10点としたスコア値である。
 注5) 千粒重および玄米品位は1.9mmふるいで調製した玄米を使用

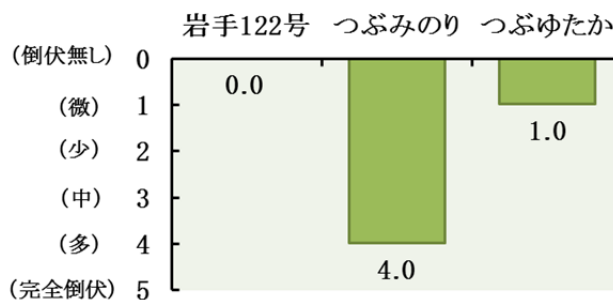


図1 成熟期の倒伏程度

※(H25～28年の北上市、軽米町の平均)

【2 留意事項】

- (1) 栽培法は現在検討中です。

「岩手122号」は、（国研）農研機構東北農業研究センター、（地独）青森県産業技術センター及び岩手県農業研究センターの三者による共同研究協定に基づき、農林水産省委託プロジェクト研究「国産飼料プロ（略称）」の支援を受け、共同育成した水稻品種です。